

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401300		
法人名	有限会社 ハマダコーポレーション		
事業所名	グループホーム おもひで		
所在地	函館市東山3丁目2-4		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0171401300-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成27年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家改修型のホームで、昔ながらの家庭の雰囲気があり、庭には灯籠や庭石もあり、四季により様々な景色を楽しむことが出来る。中庭に生える路を入居者様とご近所にお配りするなど、地域交流があり、地域の行事にも参加させて頂き、地域の方には理解と協力が得られとても良くして頂いている。
介護計画の実行内容を、毎日の業務日誌、個人記録に記録し、報告、確認しプランの目標達成に取り組んでいる。
事業所理念を共有し、職員は、理念に沿った個人目標をきっかけ達成に努め、職員同士の一体感にも繋がっている。入居者様に安心して毎日を過ごして頂けるよう、職員の思いを一つにして毎日の係りを大事にケアをさせて頂いている。

「グループホーム おもひで」は函館市中心部より北東へ車で30分程走った閑静な住宅街に位置し、建物は平屋造りの純和風住宅を改修した重厚な佇まい。室内は長火鉢を置いたり、和風の照明器具はそのまま使用し、昔ながらの欄間はインテリアとして活用して、家庭的な温かい雰囲気を醸し出している。居間には利用者のアイディアと遊び心を取り入れて「おもひで神社」を作って心の拠り所としている。この事業所の優れている点は個別ケアを重視していることである。写真を撮る趣味のある利用者は本人の体調や天気に配慮しながら支援をし、事業所内で個展を開催している。受診時やコンサート帰りを利用して外食をしたり、パチンコや競馬の好きな方には男性職員が同行して一緒に楽しんでいる。管理者と職員は内・外部研修参加の機会を多く確保して、研鑽を積み高品質なケアサービスの提供に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を毎日職員で唱和し、思いをひとつにしている。また、理念に沿った個別目標をかかげ目標が達成できるよう実践に繋げている。	毎朝、管理者と職員は理念を唱和して共有し、常に立ち戻る原点として理解を深め、全職員個々に具体的な目標を定めて実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、地域の行事などに参加させて頂き交流を深めている。回覧板や庭で取れた跡を入居者様と一緒に配ったりしている。避難訓練には、町会の方にも参加してもらっている。	町内会のクリーン作戦やふれ合い餅つき大会・夏祭りに参加して地域住民と交流したり、七夕祭りには来訪する子供たちに利用者がお菓子を手渡している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会行事に参加したときなど、地域の方から介護保険制度や認知症について聞かれたり、また、認知症の方を理解して頂けるよう、地域行事に参加し交流を大事にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度開催し、参加者の方からご意見、ご要望をお聞きし、会議での意見は、職員間で共有しサービスの向上に努めている。	町内会長や包括支援センターが出席して偶数月毎に開催し、事業所の状況や避難訓練の報告、利用者の生活振りもスライドショーで報告している。会議で表出した意見やアイディア・要望は全職員で検討し、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や地域包括支援センターへ、推進会議議事録を直接お届けし、定期的に会う機会を設け、相談やアドバイスをもらったり、情報を得るなどし、良い関係を築けるよう努めている。	市の担当者とは制度が変わった時に相談したり、市が主催する研修会に管理者と職員が参加して連携を深めて運営に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について正しく理解し、その方が納得のいくまで一緒に外を歩き、転倒などに対しても、職員で話し合い、工夫して防止し、拘束を行わないケアに取り組んでいる。研修などにも参加し意識の向上に努めている。	身体拘束禁止に関するマニュアルを整備して、いつでも閲覧できる場所に保管している。具体的な事例を基に全職員で話し合って理解を深め、拘束に繋がらないような支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、研修会に参加し、意識と知識の向上をはかり、入居者様の身体及び精神状態、表情の変化など、毎日細かな観察をし、職員間で話し合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する勉強会へ参加し、制度についての理解を高められるよう努めている。現在、成年後見制度を利用されている入居者様があり、入居前に、制度について参考資料を用いて職員で学び合った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、サービス内容など説明し、疑問点がないか確認している。改定時も、文書で説明し了承を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と十分なコミュニケーションを取り、日頃より、気軽に言ってくれるよう信頼関係の構築に努め、意見や要望をお聞きしている。より多くの意見を頂けるよう、前年度、ご家族様へアンケートを行い、今年度も実施予定である。	面会時には時間をかけて意見や要望を丁寧に聴き取っている。表出した課題は早速、管理者と全職員で話し合い運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等での職員からの意見や提案を、管理者が運営者へ伝えている。	代表者は毎日のように事業所を訪れ、管理者や職員から意見や要望を聴く機会を多く確保して、課題は素早く回答や改善している。夜勤時間を短縮して働きやすい環境にした事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には、連休や希望休を取ってもらっている。勤務時間内で業務が終えられるよう、都度、職員間でも話し合い、業務改善している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた研修会に参加してもらい、職員の知識と技術向上に努めている。また、研修等には勤務時間内に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の勉強会や会議などに参加し交流を深め、意見交換や情報交換をしている。勉強会では、事例検討やグループワークなどで、日頃の悩み等を相談したり職員の励みとなっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の来訪や訪問等で、ご本人様、ご家族様と話し合いの場を設け、不安が解消されるよう努めている。他事業所からも、細かな情報を収集し、ホームの生活に慣れ安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に同席して頂き、不安や要望などお聞きし、不安が解消されるよう努めている。ご家族様の思いを大事に信頼関係を築き安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様と話し合いの場を持ち、利用していたサービス関係者や医療機関からも情報収集し、必要とされるサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が何を望んでいるか考え、お気持ちを大事に、出来る事を職員と一緒にに行い共に日常を過ごしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃よりご家族様へ日常の様子を報告し、相談したり意見をお聞きしご本人様にとって何が一番良いか一緒に考えている。行事にも参加して頂いたり、ご家族様と出掛けられたりと共に支えて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方やご友人の来訪、ご家族様と外出されたり、通院やお好きなコンサート、娯楽施設への外出など、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	知人が利用者の好物を持って会いに来たり、家族と一緒に外出をして昼食を共にしている。代表者と職員が同行して遠方で暮らす娘さんとの面会を実現し疎遠にならないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係や性格を観察、理解し、職員が間に入り、良好な関係を築けるよう努め、入居者様同士も下膳して下さったりと助け合い、共に楽しく生活できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退去された方へも、ご家族様の意向を伺い、面会に行かせて頂いたり、入院先へも情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様からの意見や、表情や動作から思いをくみ取り、スタッフ間で情報を共有し、ご家族様に相談したり、その方の立場になって職員間で話し合い、意向を把握できるよう努めている。	日頃から会話や行動・仕草などから思いや意向を把握して、毎日の記録に記載して管理者と全職員・家族で共有している。困難な時は家族や関係者から情報を得て本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前と大きな変化なく生活が送れるよう、生活歴などお聞きし、利用していたサービス関係者からも情報提供してもらい、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの能力を見極められる力が身につくよう努め、細かく観察して記録に残し、職員間で情報を共有し、出来る事、出来ない事を把握し、出来ないことを援助するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中での気付きを、見直しに活かせるよう細かく記録に残し、職員で共有し、ご家族様のご希望をお聞きし、話し合い、現状にあった介護計画を作成している。業務日誌には、介護計画実施状況を記録し、目標達成を意識し取り組んでいる。	利用開始時は暫定的に1ヶ月の介護計画を作成し、その後はセンター方式を活用してモニタリング・アセスメントをし、カンファレンスを行って介護計画作成担当者を中心に半年毎に家族の思いや意向を反映した現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別の記録に生活の中での気付きを記録に残し、職員で情報を共有している。より良い計画が立てられるよう、日々の記録を、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医受診や買い物など、ご家族様が困難な時は、事業所で対応している。ニーズに応じて職員で話し合い、ご家族様にも相談し、柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等で外出する際は、事前に連絡し、理解と協力を得て出掛けている。町内会行事では、地域の方のご協力もあり、餅作りや踊りなど、地域の方と一緒に楽しんでもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から受診されていた、ご本人様、ご家族様の希望するかかりつけ医への受診支援をし、職員も一緒に行き状態をお伝えしている。医療連携している主治医の往診や24時間体制で緊急時や夜間も見てもらっており、安心して頂ける医療の提供に努めている。	利用開始時に本人と家族にかかりつけ医の継続や往診など意向を確認している。受診時は日頃の健康状態を記録した血圧手帳を持参して適切な医療が受けられる様に支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に一度の訪問看護時、健康状態や体調変化など報告し処置してもらったり、気になることなどを相談し指示やアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の時は、職員も付き添い情報提供し、今後の治療についてなど病院関係者と相談している。面会時は、病院関係者と情報交換し、出来る事をさせて頂き、カンファレンスにも出席し、早期退院へ向けて協力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りに関する指針を作成し、入居時に同意を得ているが、終末期支援の際には、主治医も交えてホームで出来ること、出来ないことを十分に説明し、ご家族様の意向に沿えるよう主治医と連携をとりながら職員全員で支援に取り組んでいる。	利用開始時に本人と家族に看取りに関する指針を十分に説明をして同意を得ている。状態や状況の変化に応じて、医師の判断の下家族や親族に説明し、方針を共有して安心して納得した最期を迎えられる様に取り組んでいる。今までに数件の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期救命講習を受講し、急変時も慌てず適切に対処できるよう努めている。急変や事故発生時には、主治医に往診に来てもらったり、指示やアドバイスをもらい対処している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち会いで年2回、避難訓練を行っており、地域の方にも参加してもらい、災害時に協力してもらえる体制を築いている。道南GH協会Bブロックでも災害時の協力体制を作っている。	消防立会いの下、地域の方々や設備会社の方が参加して、年2回避難訓練と消火訓練を実施し、終了後は消防署の講話や設備会社から機器操作の説明を受けている。今後は万が一に備えて自主訓練を実施する意向である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄は、暗号を使って報告し合い、自尊心を傷つけないよう配慮している。他入居者様から意見が出た時は、その方が傷つかないよう、係りを持つようにしている。	職員は人としての尊厳やプライバシーの重要性を理解して、利用者の生活歴や性格などを踏まえつつ人格を尊重した接遇に努めている。書類は鍵のかかる場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイム時、飲み物を選んでもらったり、洋服を選んでもらったり、日常の中で入居者様に決定してもらえるよう働きかけている。難しい方は、表情などからくみ取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行動や表情、仕草、会話などから、今どうしたいのかをくみ取り、今は〇〇の時間と決めず、柔軟な姿勢で対応し、ご本人様のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の生活背景を理解し、衣類を選んでもらったり、理美容ではパーマやカラーを入れ、口紅をつけたりとおしゃれを楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と買い物に行ったり、調理や盛り付け、片付け等、出来る事、得意な事を一緒にしてもらっている。刻みやムース状にする等その方に合った食事を提供し、会話も楽しんで頂けるよう配慮している。	食事は利用者の嗜好や嚥下状態に配慮した献立を作成し、買い物は職員と利用者一緒に行っている。利用者の得意分野を発揮し、食事一連の作業を職員と共に行き、朝と夜は職員と利用者が同じ食卓を囲み一緒に食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を観察し、その方に合った量を提供し、水分が摂れない時は、ゼリーや好みの物を摂ってもらっている。栄養が偏る方は、Drより高栄養ドリンクの指示があり飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員に歯科衛生士がおり、職員も口腔ケアの重要性を理解し、毎食後、口腔ケアを行っている。その方に合った口腔ケア用品を使い、口腔内の異常時は訪問歯科で見て頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレサインを見逃さずトイレ誘導し、トイレでの排泄を促し汚染を減らせるよう取り組んでいる。入居時にオムツ用品を使用している方が多いが、使用を少なく出来るよう取り組んでいる。	トイレでの排泄を大切に考えて、全職員で排泄パターンや生活習慣・サインなどを把握して、声掛けや誘導をすることで、排泄の自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操などで体を動かし、乳製品、オリゴ糖、食事などから、便秘が予防できるよう工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好きな音楽をかけて心地よく入浴してもらい、同性介護ご希望の方には、同性の職員が対応している。入浴されない方には足浴を行い、入浴を好まない方がいつでも入浴できるよう、毎日入浴出来る体制を整えている。	受診前日と週2回午後入浴している。その日の気分が好みの入浴剤を使い分け、歌を聞きながら入浴し、家族からゆずの差し入れがあった時は浴槽に浮かべて香りを楽しんでいる。拒否の強い方は無理強いすることなく声掛けを工夫したり、本人が入浴したい時に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間に休息を取られたり、疲労や体調を見て臥床して頂いている。気候に合わせた寝具を使い、加湿器や扇風機の使用で室温や湿度にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬内容が把握できるよう、個人記録に薬情報を添付し職員は常に確認している。副作用による体調の変化がないか観察をし、飲み忘れ等がないよう、出勤職員全員が確認してから内服してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味のカメラやDVD・音楽鑑賞、アルコールや外出、ドライブなどで楽しく気分転換してもらっている。家事など得意な事を発揮し役割を持てるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季の行事やドライブなどの外出の機会を多く持ち、全員で外出し季節を味わって頂けるよう支援している。買い物やコンサート、娯楽施設など趣味の外出もしてもらっている。町会主催のイベントに参加し、地域の方には大変良く協力して頂いている。	気候の良い時期は天候や体調に合わせ、近所を散歩したり、買い物・戸外での日光浴・趣味の写真を撮る外出などを個別対応や全体対応して、気分転換やストレス解消に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額は金庫でお預かりしているが、寂しい思いをしないよう少額をご本人様に持って頂いている。外食などの会計時には支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様、ご友人からの電話にお話しされ、贈り物や荷物が届いた時など、お礼の電話をしてお話されている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型ホームで、昔ながらの家の雰囲気があり、季節に合った飾りつけや入居者様のぬり絵作品を掲示したりし、季節を感じてもらえるよう配慮している。ベンチより中庭を眺めたり、ウッドデッキでのんびりと過ごしてもらったり工夫している。	居間の大きな窓から和風の中庭が見渡せる、開放感ある造りになっている。共有空間は季節感のある装飾をして家庭的な温かい雰囲気を醸し出し、温度や湿度・清掃にも配慮が見られ清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで横になったり、気の合う方と会話を楽しんだり、廊下のベンチで日向ぼっこしたりと工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物を置いて頂き、ご自分で撮られた風景写真を飾られたり、お好きな球団グッズを飾っている方もおり、写真やお好きな本、CD等で気持ちが安らぐよう配慮し、使用していた家具や馴染の小物を使用してもらい居心地良く安心して過ごせるよう配慮している。	各居室には大容量のクローゼットが作り付けられて、ベッドや家具・仏壇・思い出の品々を持ち込んでも余裕のある空間が確保されている。自身が趣味で撮った花の写真などを季節毎に飾り、利用者一人ひとりが個性豊かな部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の出来る事を見極め、危険のない範囲でして頂いている。立ち上がりや歩行が安全に出来るよう手すりを設置し、一人ひとりに合った靴や補助具を使用している。		